

中國出土資料學會
平成25年度第2回例会

日時：平成25年12月7日（土）
平成25年度第2回例会
受付開始 12：30～
研究報告 13：00～17：00

場所：成城大学8号館2階823教室
（東京都世田谷区成城6丁目1-20）
会場へのアクセス：小田急線・成城学園前駅より徒歩3分

報告Ⅰ 矢島 明希子（慶應大学大学院文学研究科博士課程）

発表題目：漢代画像石に見るふくろうの表象 —その機能と地域的特徴—

発表概要： 中国におけるふくろう（鴟鵂）は、「悪鳥」というイメージが強い。『説文』で「梟」は「不孝鳥也」とされるが、近年、鴟鵂形青銅器や玉鴟が発見され、鴟鵂神の存在が注目されてきている。特に、殷文化における鴟鵂神信仰については、中国の研究者から多くの論文が上梓されている。画像資料の点から見れば、ふくろう信仰は殷代青銅器だけでなく、漢代画像石からもうかがえる。本報告では、主に漢代画像石におけるふくろう像について、その機能と地域的な特徴について考察を加えたい。

報告Ⅱ 草野 友子（日本学術振興会特別研究員PD）

発表題目：上博楚簡『成王為城濮之行』の内容と構成

発表概要： 2012年12月、『上海博物館蔵戦国楚竹書（九）』（馬承源主編、上海古籍出版社）が刊行され、その中には楚国故事に関する文献が四篇含まれていた。そのうちの一篇、『成王為城濮之行』は、楚の成王が城濮の地を視察した際に、臣下である子文と子玉に軍事演習を行わせ、それをめぐって子文と蔣賈が対話するという内容である。本篇は、『左伝』僖公二十七年伝の記事と関連が深く、対比して読むことで全体を把握することができる。

本発表では、『成王為城濮之行』の内容を確認し、『左伝』の関連記事との比較を通して、本篇の構成を明らかにしていきたい。また、上博楚簡に見える楚国故事の性質についても検討を加えていきたい。

報告Ⅲ 張 光裕（恆生管理學院中文系講座教授、中國語言及文化研習所所長）

発表題目：淺談清華簡的發現、價值及其影響

発表概要： 未公開資料が含まれているため、概要の公開は致しません。

☆参加費(資料代) 500円

☆非会員の来聴を歓迎します

☆大会終了の後、懇親会を行う予定です。ふるってご参加ください。

連絡先（例会委員長）

〒400-0035

山梨県甲府市飯田5-11-1

山梨県立大学国際政策学部

名和研究室

Tel 055-224-5276（直通）

Fax 055-228-6819

E-mail : nawa@yamanashi-ken.ac.jp

☆会場へのアクセス

